

3 - 4 1986年6月24日房総半島南東沖の地震

The Earthquake off Southeast Coast of the Boso Peninsula, June 24, 1986

国立防災科学技術センター

National Research Center for Disaster Prevention

第1図は房総半島と周辺地域の深さ100km未満の地震の分布を示す。1986年6月24日11時53分、図中の矩形域内にMJ(気象庁マグニチュード)6.5の地震が発生し、多数の余震を伴った。

第1表に、P、S波初動読取値に観測点補正を施して決定された本震とM3以上の余震(11月20日迄)を示す(本震のMは大多数の観測点で、記録最大振幅が飽和したため不正確である)。

第2図(a)、(b)は各々第1図矩形域内に発生した1986年1月～6月23日および6月24日～11月20日の深さ100km未満の震央分布を、また第3図はこの領域の日別地震回数と積算回数を示す。本震発生前は主に南西側の相模トラフ付近で小地震が発生しているが、今回の震源域付近に前震活動はみられない。本震発生約6時間前の6月24日05時54分には、勝浦西方の 35.19° N, 140.15° E, 深さ34kmにM3.2が発生している。

第4図(a)、(b)は各々今回の活動域を含む幅20kmの東西および南北方向の震源鉛直分布を示す。震源は主に60～75kmの深さに集中し、全体として北西方向に深くなる傾向を示している。広域的にみると、これらの地震は第5図の震源鉛直分布図、および太平洋プレート上面の等深線¹⁾上に位置し、太平洋プレート内で起きた地震と推測される。

第6図は本震と主な余震のメカニズム解を示す。本震、余震ともP軸は西北西-東南東、T軸は北北東-南南西方向にあり横ずれ型に近い。

今回の震源域周辺(第1図矩形域)では最近約6年間の主な地震として、

1980年 3月12日12時21分, 34.92° N, 140.62° E, 96km, M_J 5.6

1980年 5月 8日17時03分, 34.59° N, 140.39° E, 79km, M_J 5.7

1982年 3月27日09時19分, 34.63° N, 140.98° E, 52km, M_J 5.6

1985年10月 4日06時28分, 34.82° N, 140.94° E, 84km, M_J 5.6

が発生している。しかし、これらの地震活動域の南東側、相模トラフを挟む海溝三重点付近までの海域(第1図、破線で囲まれた領域)は、周辺に比べ地震活動が著しく低いことが注目される。

(野口 伸一)

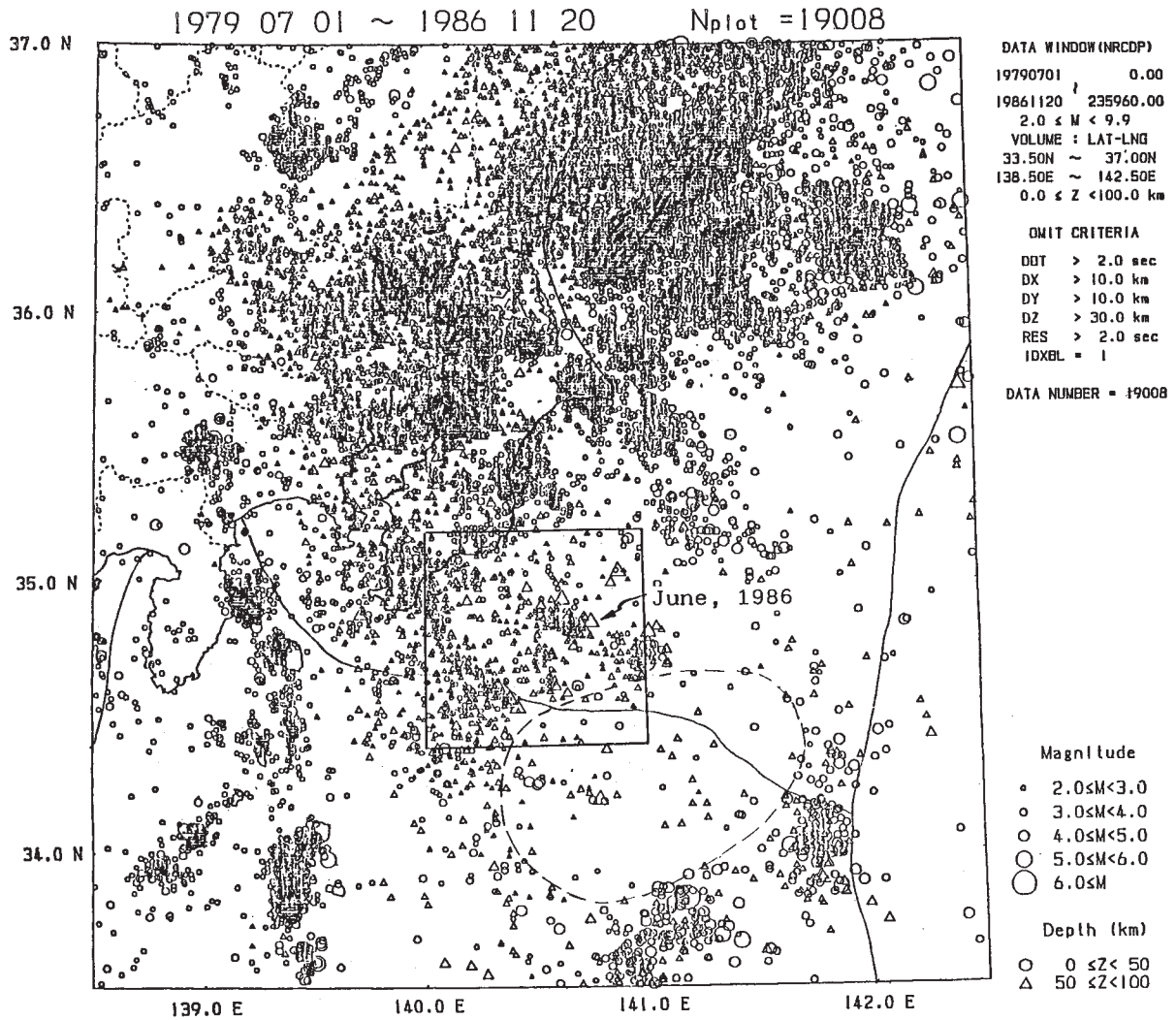
参 考 文 献

- 1) 石田瑞穂：関東・東海地域の震源分布から推定したフィリピン海及び太平洋プレートの等深線, 国立防災科学技術センター研究報告, **36** (1986), 1-19.

第1表 本震とM3以上の余震(1986年6月24日~11月20日)

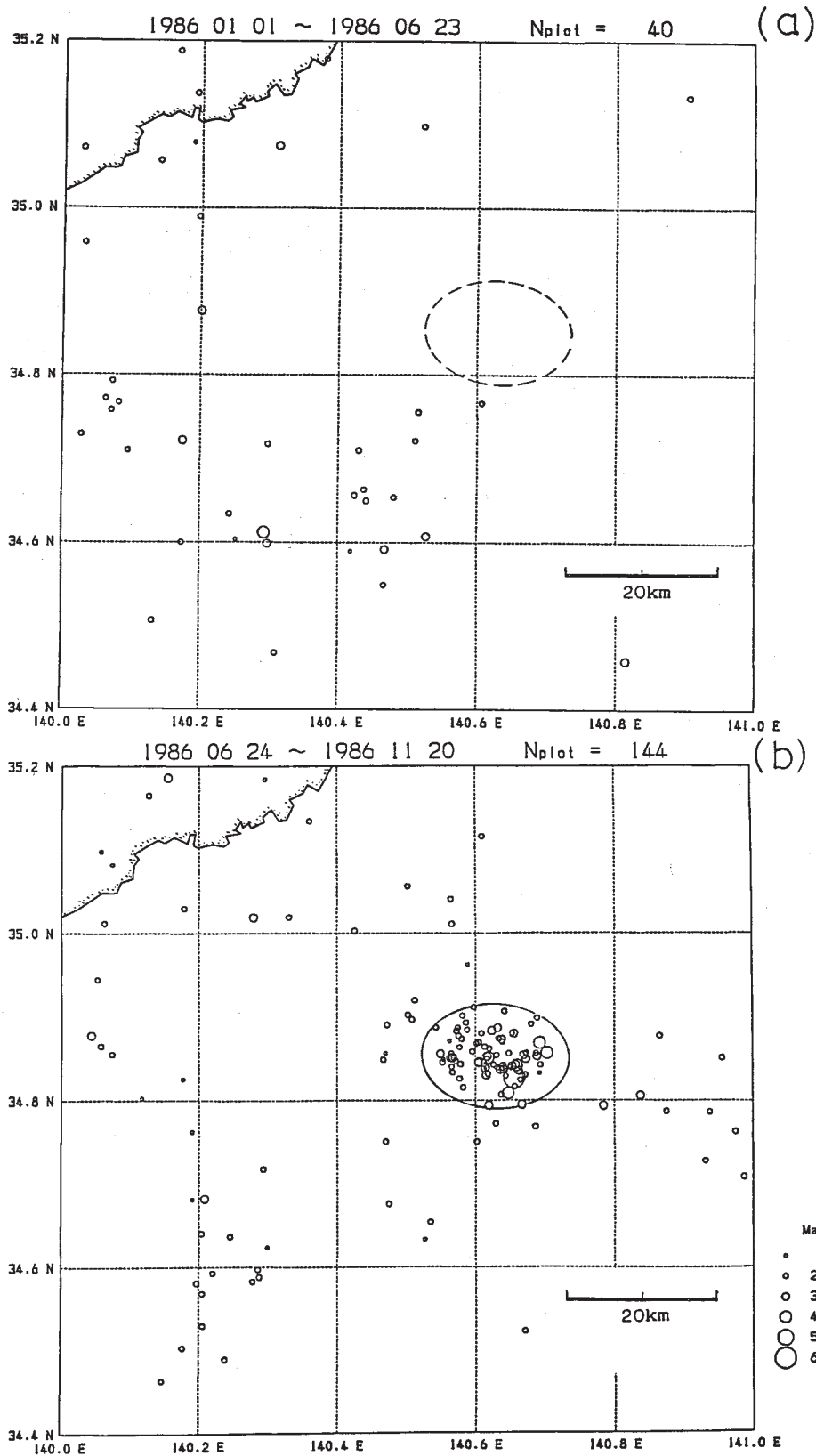
Table 1 List of main shock and aftershocks with $M \geq 3$ for the period from June 24, 1986 to November 20, 1986.

M	D	H	M	Lat. (°N)	Long. (°E)	Dep. (km)	M
6	24	11	53	34.83	140.66	63	(6.3)
		12	17	34.84	140.64	64	3.7
		12	27	34.85	140.67	70	3.2
		12	34	34.88	140.65	69	3.2
		13	07	34.84	140.60	61	3.6
		15	08	34.85	140.57	64	3.1
	25	03	45	34.86	140.70	71	5.2
	26	15	09	34.87	140.69	68	4.2
	28	08	08	34.81	140.65	63	4.5
	29	16	41	34.86	140.55	70	3.0
7	3	11	58	34.84	140.66	64	4.1
		17	13	34.84	140.66	64	3.1
		23	56	34.85	140.69	65	3.0
	4	14	59	34.84	140.64	62	3.2
		15	03	34.85	140.56	68	3.1
	6	10	00	34.89	140.63	74	3.0
		17	31	34.85	140.62	63	3.2
	8	04	41	34.84	140.65	65	3.1
	10	05	11	34.84	140.64	66	3.1
	14	12	54	34.85	140.60	71	3.3
	30	06	36	34.88	140.62	72	3.4
8	6	00	41	34.81	140.84	56	3.6
8	15	03	00	34.85	140.62	73	4.3
	21	00	53	34.85	140.67	67	3.0
	27	10	00	34.83	140.62	59	3.2
9	4	01	01	34.79	140.78	57	3.7
10	19	01	03	34.84	140.61	70	3.1
10	21	12	41	34.87	140.64	75	3.0
10	27	06	36	34.84	140.66	66	3.2
11	1	11	51	34.80	140.67	59	3.1
11	18	07	56	34.79	140.62	57	3.2



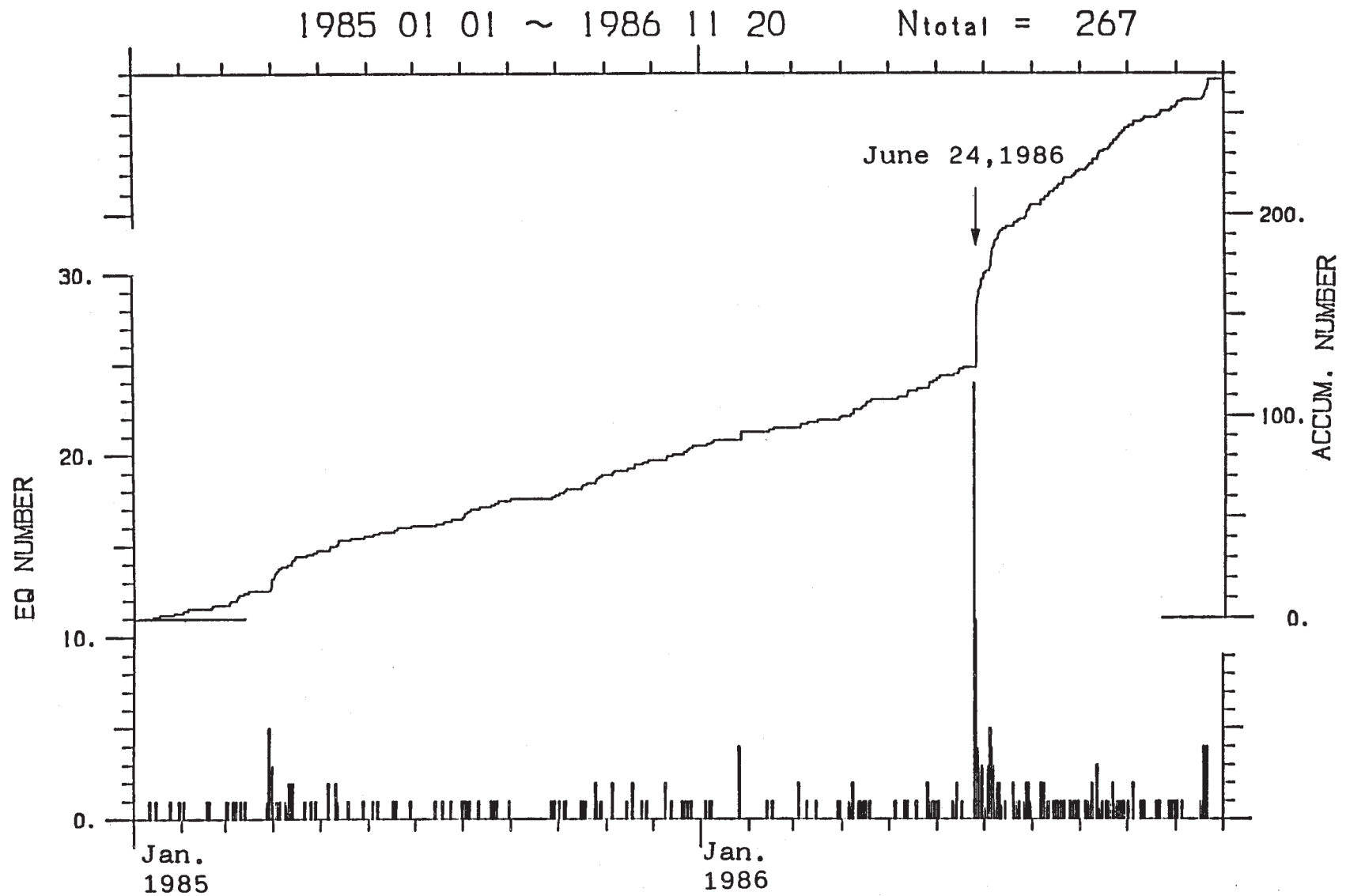
第1図 M2以上、深さ100km未満の地震の震央分布。破線で囲まれた地域の地震活動は周辺海域に比べ著しく低い。

Fig.1 Epicentral distribution of earthquakes with $M \geq 2$ and depth < 100 km. It is noticeable that the seismic activity in the region encircled by the broken curve is remarkably low compared with surrounding areas.



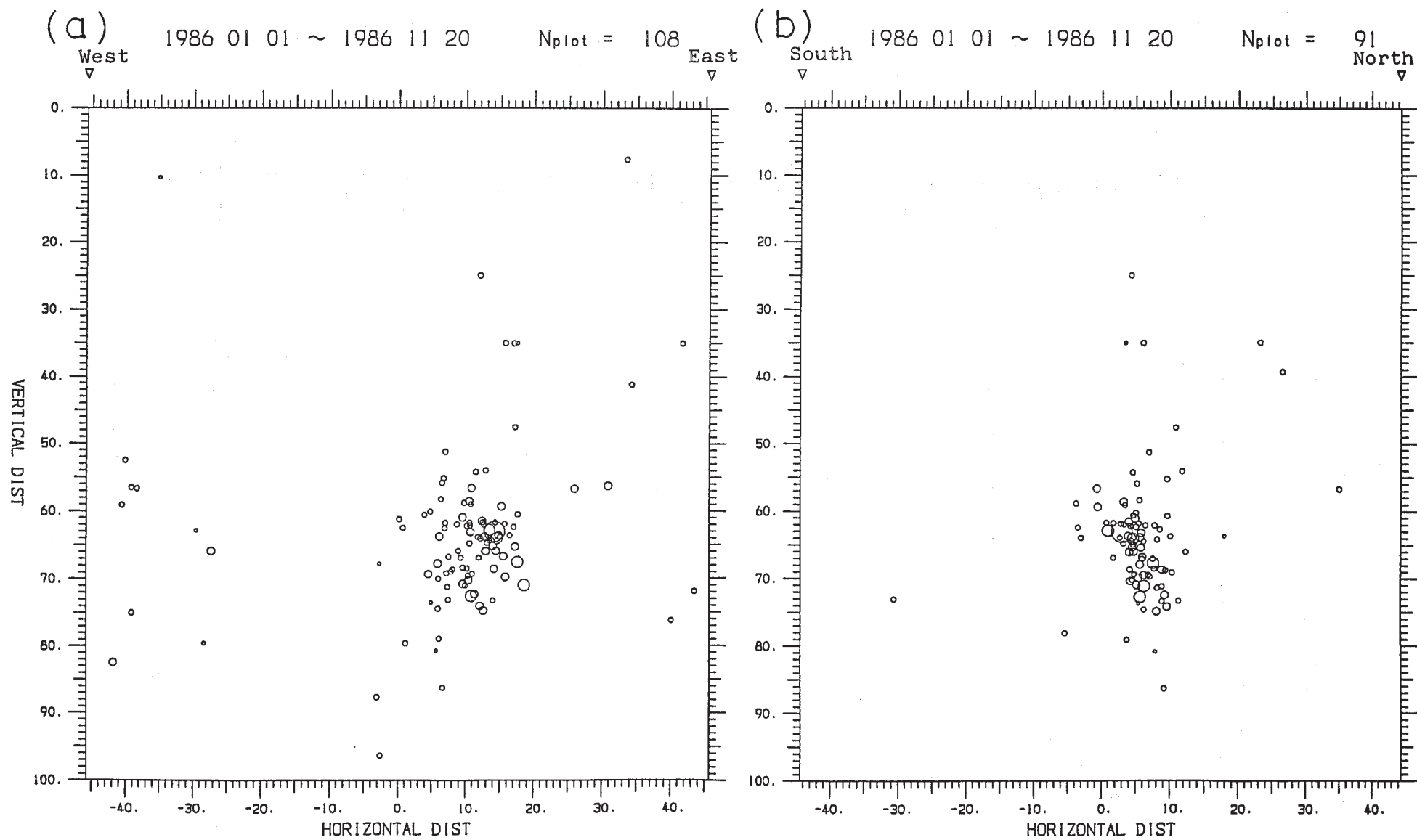
第2図 第1図の矩形域 (34.4 ~ 35.2°N, 140 ~ 141°E) の深さ100km未満の地震の震央分布
 (a) 1986年1月~6月23日 (b) 6月24日~11月20日

Fig. 2 Epicentral distribution of earthquakes with depth < 100 km in the region shown in Fig. 1 (34.4-35.2°N, 140-141°E), (a) January, 1986 - June 23. (b) June 24 - November 20, 1986.



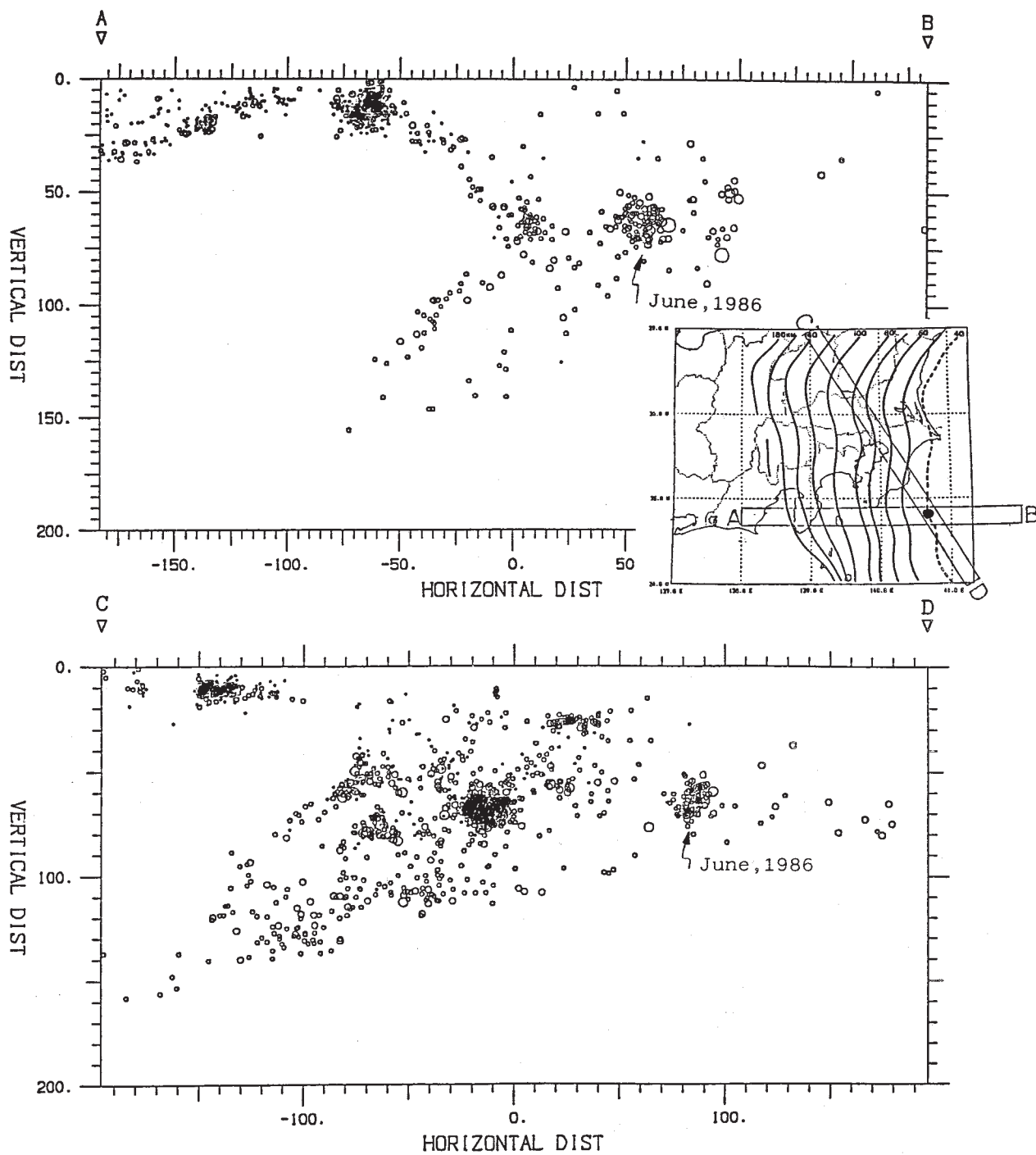
第3図 第2図領域の地震の日別回数と積算回数 (1985年1月1日~1986年11月20日)

Fig. 3 Daily and cumulative number of earthquakes occurred in the region shown in Fig.2 for the period from January 1, 1985 to November 20, 1986.



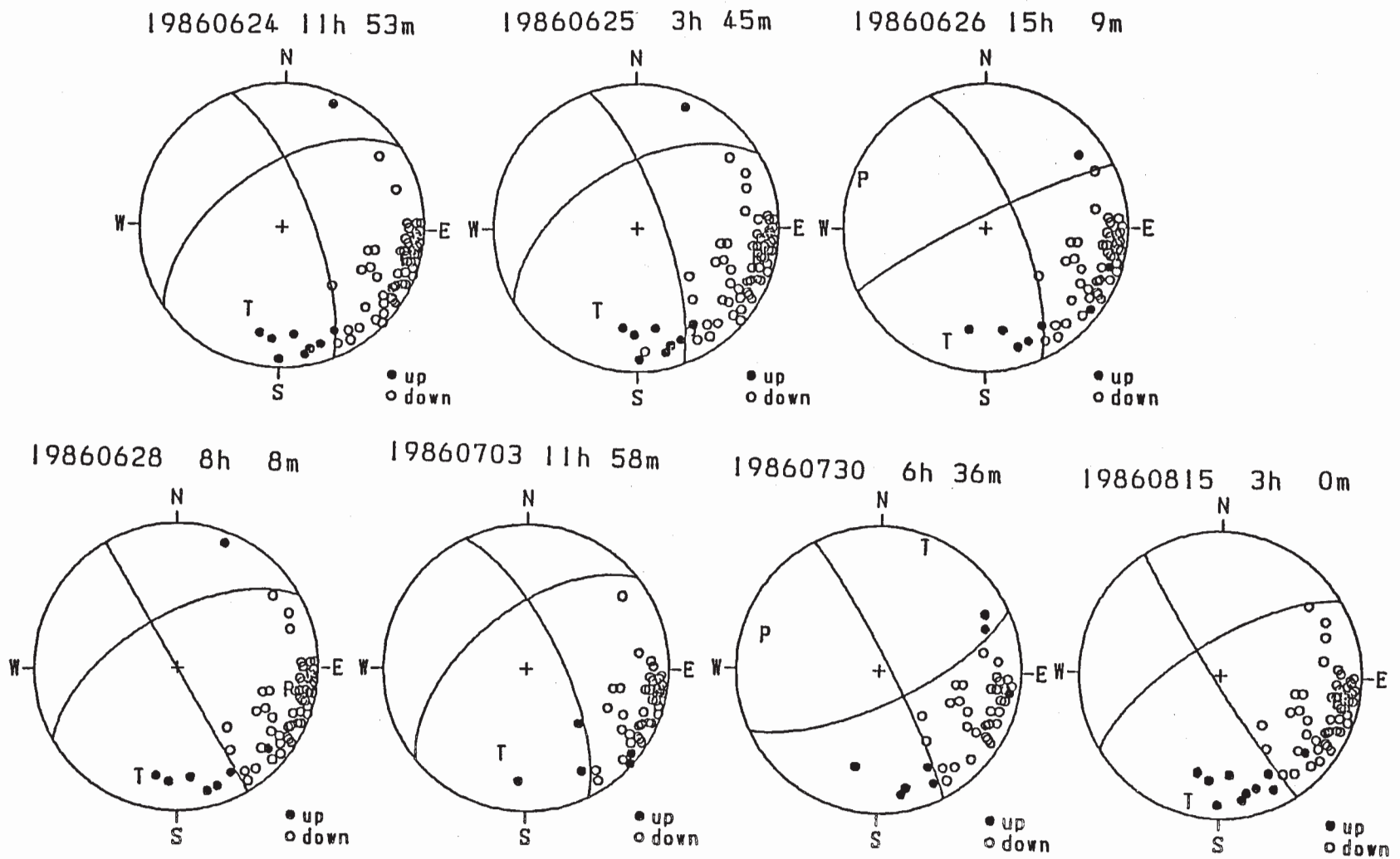
第4図 東西 (a) および南北 (b) 方向の震源鉛直分布

Fig. 4 Focal depth distribution of earthquakes projected on east-west (a) and north-south (b) sections.



第5図 震源鉛直分布と太平洋プレート上面の等深線¹⁾

Fig. 5 Vertical sections of hypocenters and the iso-depth contours of the upper plate boundary of the Pacific plate¹⁾.



第6図 本震と主な余震のメカニズム解（下半球等積投影）

Fig. 6 Focal mechanisms of main shock and major aftershocks (equal area projection on the lower hemisphere).